

十津川村先遣視察報告

令和2年3月9・10日（月・火）、「災害時の地域防災力向上に向けた協定」を結んだ十津川村へ先遣隊として植村理事長、板垣理事、杉村理事、村山監事の4名が、役場の案内で村が考える地区防災計画の候補地、東区東部（大字竹筒、神下、東中、上葛川）、西川区（大字出谷、上湯川、重里）、四村区（果無）の8ヶ所を回りました。

午前11時前に十津川村役場に到着。簡単な打合せ後、総務課玉置係長さんの案内で十津川村東区に入りました。役場から約1時間かけて竹筒公民館に到着。竹筒大字の総代さん（東区区長）に、大字の様子や集落での取り組みのお話を伺いました。当会から、今後の進め方として、東区東部にてモデル地区（2か所程度）を決めて進めてはどうかと提案。後日、役場を通して詰めに入ることを確認しました。

※ なお、新型コロナウイルスの関係で、日時を延期することになりました。

<3月9日（月）>

役場→竹筒→玉置川→神下→東中→上葛川

<3月10日（火）>

果無→上湯川→出谷→重里→役場

※ 10日は、雨が強くなってきたので、途中から予定を短縮しました。

<視察感想>

候補地は、いずれも国道から狭小な村道を経てしかたどり着かない集落ばかりで、大規模災害時には間違いなく孤立（紀伊半島大水害時には孤立した）。また、場所によっては、集落だけでなく、個々の民家も集落内で孤立することを実感。

今後の進め方として、どの集落で取組を開始するにしても、各集落の実態（暮らし）を知ることからスタートし、その場に合った計画を立てることが必要と感じた。

また、紀伊半島大水害時に比較的被害が少なかった集落では防災への意識が希薄ではないかと推測します。素直な感想として、まずは、地域のリスクを知ることから初めて行くことが求められているでしょう。十津川村では、大規模尾災害時には、「村」が孤立し、「各集落」も孤立。加えて、場所によっては各個別の「家」が集落内で孤立することも見据えた取り組みが必要と思われます。

（奈良県防災士会：植村信吉）

<竹筒>



<玉置川>



<神下 (こうか) >



<東中>



<上葛川>

